

にし西

■編集

西区役所総務企画課広聴係 〒063-8612 西区琴似2条7丁目1-1

TEL 641-2400 内線224~226 FAX 641-2405

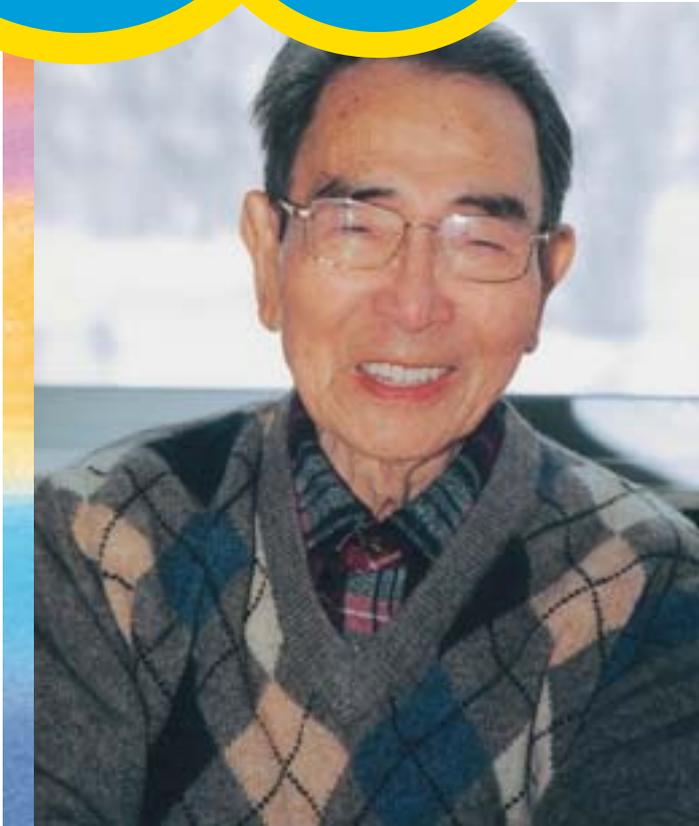
◎西区広報番組「西区情報プラザ」FMラジオ三角山放送局76.2MHz
毎週月曜日午前11時～

◎西区ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/nishi/>

◎区民のページ 2005・3



まちの人



スキー歴76年の現役スキーヤー

さいとう まさとし
齊藤 昌敏さん(99)



■「ホームゲレンデ」藻岩山スキー場にて

「長生きするためには、スキーをしてきたのではなく、スキーをしてきたら長生きしちゃうんです」。こう話すのは、山の手地区に住む齊藤昌敏さんです。三十年前、藻岩山スキー場をホームゲレンデとしてきた齊藤さんは、この一月に同スキー場から白寿のお祝いを受けたばかりです。

齊藤さんとスキーの出会いには昭和四年、旧北海道拓殖銀行入行一年目のとき。職場で一年間スキーを貸してくれたのがきっかけとなったそうです。五十五歳で退職後は山の手に自宅を構え、裏山である三角山で滑っていました。そ

長生きの秘けつは怒らないこと。

「長生きするためには、スキーをしてきたのではなく、スキーをしてきたら長生きしちゃうんです」。こう話すのは、山の手地区に住む齊藤昌敏さんです。三十年前、藻岩山スキー場をホームゲレンデとしてきた齊藤さんは、この一月に同スキー場から白寿のお祝いを受けたばかりです。

齊藤さんとスキーの出会いには昭和四年、旧北海道拓殖銀行入行一年目のとき。職場で一年間スキーを貸してくれたのがきっかけとなったそうです。五十五歳で退職後は山の手に自宅を構え、裏山である三角山で滑っていました。その後、住宅が増えてきたため、双子山、荒井山と場所を変え、最終的に藻岩山に落ち着いたそうです。荒井山でスキーに熱心な友達が出てから、本格的にスキーにのめり込んでいったといいます。七十八歳のとき、がんで胃を全部摘出したときは「スキーができなくなるのでは」と心配をしましたが、現在シーズン中はほぼ毎日、元気にスキーを楽しんでいます。体を鍛えるため、夏場には六十歳ころから始めたラジオ体操と一時間のジョギングを欠かさないといいます。九十歳ころまで体力の衰えを感じたことがないというのもうなずけます。

「スキーを履くともっと元気になるんです」とゲレンデに向かう齊藤さん。スキー板をはめた後の動きは軽やかで、さつそうと滑る姿は年齢を感じさせません。「だれも僕の年を当てたことないんです」と愉快そうに語ります。「元来、体は丈夫でのんき者。気をつけているとすれば、怒らないことかな。心掛け次第ではないぶん違います」。それが健康の秘けつですか、との問いに「そうかもね」とにこやかに答えてくれました。

区民のページで取り上げてほしいテーマなど、皆さんからのご希望やご意見をお寄せください。はがきファクスEメール nishi@city.sapporo.jp 西区総務企画課広聴係(上欄)へ。